

Q & A

問題解決!



南部宮農センター
園芸課
検校 哲也

Q1 庭木の元気がありません。どうすればよいでしょうか？

A1 野山の木は、人の手を借りずに育っています。育つ場所だから枯れることなく元気でいます。ミカンがよく実っても、リンゴはこの辺りでは育ちません。ブルーベリーは専用の土で栽培します。

このように、植物にはそれぞれに適した気候や土壌があります。適地適作と言います。暑さ寒さ、雨の多少、陽あたりなどの条件が合っていれば元気に育つでしょう。

さて、木の生えている野山と庭の違いは何でしょう。気候が同じなら土壌が違うことになり。カチカチの土に対し、ふかふかでしょうか。

豊かな森は、ほどよい水持ちで雨がたまることもなく、落ち葉や下草で有機質が豊富です。

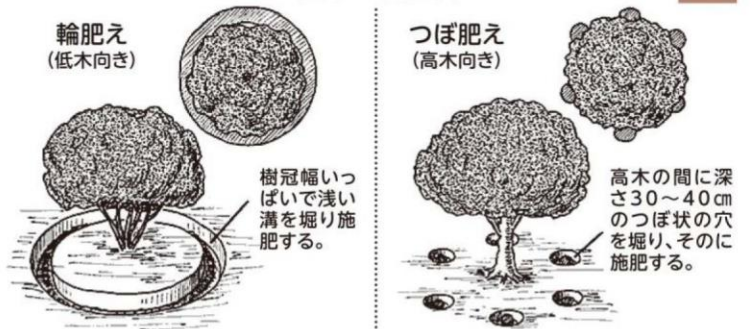
そして、ミミズなどの土壌動物、微生物や菌類といった多くの生き物が土の中を耕してふかふかになります。庭を「ふかふか」にしましょう。

まず、水はけを良くします。雨水がたまるようでしたら、溝を掘って木の周りに水がたまらないようにします。木の周り半径1mほどを深く30cmほど起こします。根を切るようでしたら、東西南北4年計画で、1年に4分の1ずつ起こしてゆきます。



庭木の施肥料

図1



起こすと同時に、腐葉土、バーク堆肥、牛糞堆肥といった有機物をすき込みます(3~4kg)。こもりと盛土したように仕上げると株元から周りへ水はけがよくなります。季節は問いませんが、冬から春先に作業しておくと良いでしょう。肥料をあげる場合の庭木の施肥を図にしたので参考にしてください。

(図一)

刈り草や落ち葉など、毎年、有機物をあげていけば木の元気は続きます。とはいっても、豊かな森と違って、庭の土が育てられる力には限界があります。木が生い茂った庭より、風通しと陽あたりの良い、すっきりした庭のほうが気持ち良くありませんか。

そのために剪定をしましょう。病気や虫の被害を受けた枝、込み入った枝や立ち枝などを整枝します。木のとこまで陽が差し、元気になります。となりの木の陰になる枝も落とします。高い木が庭に影を作らなければ、毎年剪定でコンパクトな姿にまとめましょう。

有機質をほどこして土をふかふかにして、剪定で陽あたりを良くする。これで元気がなくなつた木も回復するでしょう。

Q2 みかんの肥料を施す最適な時期はいつごろでしょうか？

A2 3月(花芽、新梢の充実)と6月(果実の肥大と樹勢維持)、10月(樹勢回復)に、油かすや有機の緩効性肥料を施肥すると効果的です(愛菜・菜々耕房に専用肥料があります)。

果物の木は、基本的に根の先端から肥料を吸収するので幹に近い所は避け、枝の先端の下ぐら

らいに施肥しましょう。木を中心として輪を描くように深さ10cmに穴を掘り埋めて与えます。

みかんの剪定は、2月下旬~3月初めに混んだ枝を落として木全体に陽が当たるようにします。新芽が作られる前に済ませておくと、実付きを心配することはありません。



オンライン
農業塾は
こちら

動画はコチラ



管内の
病害虫
情報は
こちら



家庭菜園
情報は
こちら

